

環境経営レポート

対象期間: 2022年4月～2023年3月

対象範囲: 株式会社ヒロコウ 全社

株式会社 ヒロコウ

2023年9月30日

目 次

1. 挨拶・環境経営方針	1
2. 組織の概要	2
3. 環境経営システムの運用体制	4
4. 環境目標とその実績	5
4-1. 主な環境負荷の実績	5
4-2. 環境目標と実績	6
5. 環境活動計画の取組計画の内容とその評価、次年度の取組内容	8
6. 環境関連法規制等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、 訴訟等の有無	10
7. 代表者による全体評価と見直しの結果	11

添付 「環境目標設定書（2021年～2023年）」

添付 「②自社原料の処理量 添付書類①」



ごあいさつ

株式会社ヒロコウは、創業以来「国内のものは国内で再資源化を！」の考え方で、プラスチックの再生事業を営み、循環型社会の一翼を担ってまいりました。

2022年4月にプラスチック資源循環法が施行され、より一層プラスチックの環境に対する意識が強まって来る中で、今迄以上に社員一人一人が、3R+Renewableを意識して、事業活動に取り組みます。

株式会社ヒロコウ
代表取締役 井門 義覚

1. 環境方針

株式会社ヒロコウ

環境経営方針

〈環境経営理念〉

海洋プラスチックごみ問題、気候変動問題、諸外国の廃棄物輸入規制強化等、プラスチックを取巻く環境は一層厳しい状況にあります。

今日では、製品の設計からプラスチック廃棄物の処理までに関わるあらゆる主体におけるプラスチック資源循環等の取組（3R+Renewable）の促進が求められます。

私たちはプラスチックのリサイクル事業を通じて、循環型社会の一翼を担ってまいりましたが、事業活動全般においても、一層の環境負荷低減のために、自主的・積極的に環境効率の向上に取り組み、地元地域はもとより、国内のプラスチック資源の循環について、社会的貢献と責任を果たします。

〈環境保全への行動指針〉

1. 事業活動のあらゆる領域で「3R+Renewable」を意識し、環境負荷低減を図り、汚染予防に努め下記の項目について取り組みます。

「3R+Renewable」を全ての事業活動の基本とします。

Reduce : ごみの発生を減らす
Reuse : 使い捨てにせず、繰り返し使う
Recycle : 貴重な資源として再利用する
Renewable : 再生可能な資源に置き換える



- 各部門における資源・エネルギーの投入量を削減し、二酸化炭素排出量を減少させ、生産性の向上を図ります。
 - 各部門における無駄を探し、廃棄物の減量および排水量の削減を通じ、歩留まりを改善します。
 - 化学物質使用量の削減のために、PRTR制度の理解と対象化学物質の種類、使用量、保管量、使用方法、保管場所等を管理し改善を図ります。
 - 環境に配慮したグリーン購入を推進します。
2. 取引先とのコミュニケーションを密にし、製品・サービスの質を向上させ、地元地域はもとより、国内のユーザーに対して、プラスチック資源の循環に寄与します。
3. 関係する環境法規を遵守すると共に、地域社会における環境保全活動に積極的に参加します。

制定日：2009年8月10日
改定日：2021年8月1日

株式会社ヒロコウ
代表取締役 井門 義覚

2. 組織の概要

2-1. 事業所情報

事業所名 : 株式会社ヒロコウ
代表者 : 代表取締役 井門 義寛
所在地 : 【本社】〒792-0003 愛媛県新居浜市新田町2丁目1番7号
TEL 0897-35-2990 FAX 0897-35-2992
【伊予工場】〒799-3124 愛媛県伊予市三秋^{みあき}字^{はなれやま}離山丙6番408
TEL・FAX 089-983-6087
【萩生工場】〒792-0050 愛媛県新居浜市萩生^{はぎゆう}岸ノ下1251番地1
TEL・FAX 0897-43-4931

設立 : 平成 4年 4月1日 (創業:平成 3年 2月 25日)
事業内容 : 使用済みプラスチックのペレット材への再生加工・販売及び
合成樹脂原料・製品の販売
環境管理責任者 : 専務取締役 枝茂^{しもかわ}川^{ひとし} 等
連絡先 : hirokou@shikoku.ne.jp
環境管理担当者 : 総務部 井門^{いもん} さくら
連絡先 : hirokou@shikoku.ne.jp

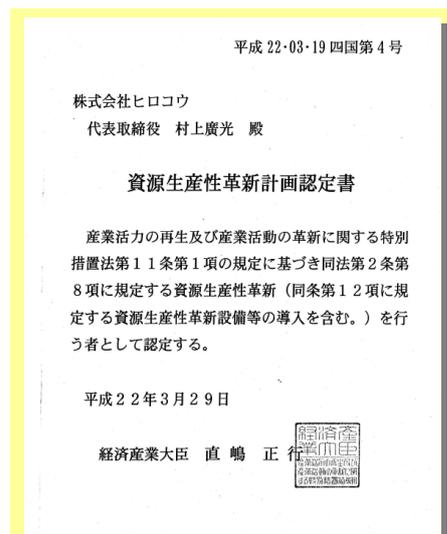
2-2. 事業の規模

資本金 : 1,000万円
事業年度 : 4月～3月

	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
処理量	t	3,656	3,798	4,276	4,347	3,778	3,501	3,291
売上高	百万円	710	628	665	580	395	506	643
従業員数	人	19	19	19	19	19	19	19
事業所数	所	3	3	3	3	3	3	3
床面積	m ²	1,249	1,249	1,249	1,249	1,249	1,249	1,249
全行程の 再循環処理量	t	11,153	10,201	11,288	10,185	6,773	7,871	7,336

「再循環処理量」の値は環境負荷(CO2、排水、廃棄物等)の原単位分母として利用しております。

その他 : 萩生工場の生産ラインが、
資源生産性を向上させるとして
経済産業省より
「資源生産性革新計画」
の認定を受ける。
(平成 22 年 3 月)



2-3. 許可の内容

(1) 許可番号

種類	許可番号	許可年月日	有効年月日
産業廃棄物中間処分量	愛媛県 3822070346	令和2年10月9日	令和7年6月7日

(2) 事業の範囲

中間処分量

破砕処分：廃プラスチック類（熱可塑性樹脂に限る）

溶融処分：廃プラスチック類（熱可塑性樹脂に限る）

(3) 処理施設の種類と処理能力

破砕施設：破砕機（30馬力）… 1機〈処理能力3,760kg/日、伊予工場設置〉

溶融施設：押し出し機 … 1機〈生産能力3,200kg/日、伊予工場設置〉

保管場所：保管面積30㎡、保管高さ2m以内

(4) 処理工程

廃プラスチック



収集運搬



自社中間処分場



保管



破砕処分（破砕機30馬力）



保管



売却

廃プラスチック



収集運搬



自社中間処分場



保管



破砕処分（破砕機30馬力）

溶融処分（押し出し機）



保管



売却

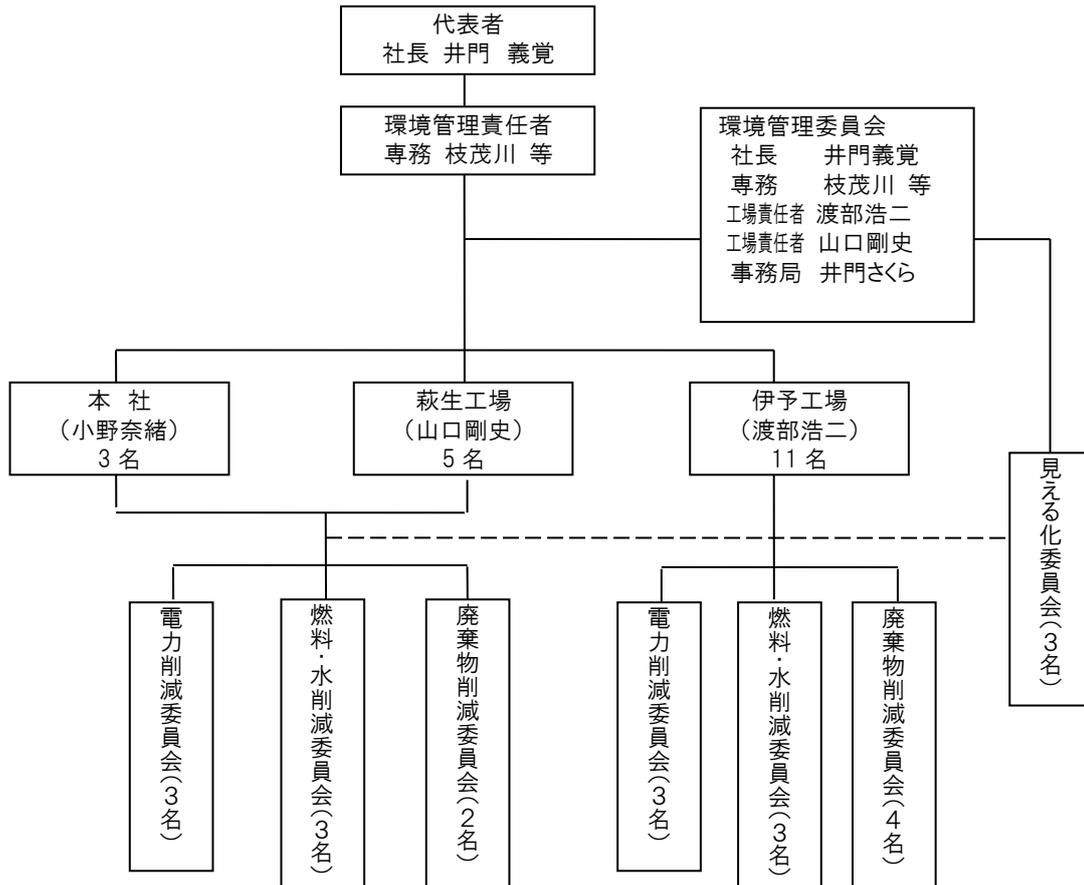
(5) 処理実績及び処理費用について

当社での再生事業のためのプラスチック原料は、有価にて購入しており、産業廃棄物としての処分の事業をしておりません。

従いまして、産業廃棄物としての処理実績は添付（②自社原料の処理量 添付書類①）を参照下さい。

3. 環境経営システムの運用体制

当社の認証範囲は下の全組織・全活動です。



【運用体制の役割分担】

役職	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施及び管理に必要な、人、設備、費用を用意 環境管理責任者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築及び実施の推進 環境活動実施計画書を確認 環境活動の取組結果を確認 環境活動レポートの確認
環境管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境目標・環境活動実施計画書原案の作成 環境関係の情報の提供・共有 EA21の取組みについての状況の確認 及び問題点の解決策を立案 会は定期的及び必要の都度開催
環境管理事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 「環境関連法規等チェックリスト」の作成 環境活動における教育訓練の実施 環境活動実施計画の実績集計 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開
各委員会 (全従業員所属)	<ul style="list-style-type: none"> 委員会に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 環境活動の問題点の発見、是正、予防処置
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境目標とその実績

4-1. 主な環境負荷の実績

基準年度として、2017年度の環境負荷と今回の活動レポート対象期間分（2022年4月～2023年3月）を合わせて表記します。

【電力・化石燃料使用量と生産量】

	年 度	期 間	全 社	伊予工場	萩生工場	本 社
電力使用量 (kwh)	2017年	通 年	1,142,247	589,362	548,635	4,250
	2022年	通 年	1,126,121	464,444	657,528	4,149
ガソリン (L)	2017年	通 年	4,225	0	0	4,225
	2022年	通 年	3,392	0	0	3,392
軽 油 (L)	2017年	通 年	28,391	6,110	2,870	24,303
	2022年	通 年	26,421	4,101	1,654	20,666
全行程の再循環処理量 (kg)	2017年	通 年	10,200,621	5,057,668	5,142,953	—
	2022年	通 年	7,335,962	3,763,866	3,572,096	—
電力/再循環処理量 (kwh/kg)	2017年	通 年	0.112	0.116	0.107	—
	2022年	通 年	0.153	0.123	0.184	—

* 本社の電力は、生産量に影響されませんので、生産1kg当たりの電力使用量の計算をしておりません。

※活動期間中の全行程の再循環処理量が、全社で72%と減少しております。これはコロナの影響で入荷量が減ったことに起因します。

萩生工場の電力使用量がアップしていますが、使用電力の割合が多い新設備の導入によります。

【電力・化石燃料をCO₂換算して、環境負荷をまとめます】

【主な環境負荷実績】

項 目		期 間	全 社	伊予工場	萩生工場	本 社
全CO ₂ 排出量 (Kg-CO ₂)	2017年	通 年	456,559	204,378	185,229	66,952
	2022年	通 年	459,011	167,982	225,892	65,138
電 力 (Kg-CO ₂)	2017年	通 年	372,373	192,132	178,855	1,386
	2022年	通 年	367,115	151,409	214,354	1,353
ガソリン (Kg-CO ₂)	2017年	通 年	9,802	0	0	9,802
	2022年	通 年	7,869	0	0	7,869
軽 油 (Kg-CO ₂)	2017年	通 年	74,384	12,246	6,374	55,764
	2022年	通 年	69,223	10,745	4,333	54,145
廃棄物排出量 (t) (廃プラ)	2017年	通 年	207.5	199.0	8.5	0
	2022年	通 年	145.2	142.7	2.5	0
総排水量 (m ³)	2017年	通 年	1,543	467	1,016	60
	2022年	通 年	970	413	557	32

* 二酸化炭素排出量を把握する際に用いた排出係数は、0.326kg-CO₂/kwh（平成22年度の四国電力）です。

4-2. 環境目標と実績

<環境目標>

当社は電力消費のほとんどが製品製造時の動力にあたるため、生産量の増減によって大きく影響されます。したがって、生産量原単位を基準単位として、各数値目標を設定いたします。

(P5の2021年度 全工程の再循環処理数量 7,335,962kg を分母として算出)

- ・二酸化炭素排出量削減については、生産量原単位で基準年度の2017年度比 13.6g-CO₂/kg (130%) の増加となりました。コロナの影響により生産量が落ち、結果として効率が悪くなっています。
- ・廃プラに関しては、大きな削減ですが、これは廃棄率が高い素材の入荷が減ったことが大きな要因です。但し生産量が落ちているために、実際の数量は減っています。
- ・節水についても、生産量が落ちているため洗浄水などの工程水の使用量は減っています。

全体的には、使用量は減っていますが、大量生産で効率を求める生産ラインのため、効率は悪くなる。

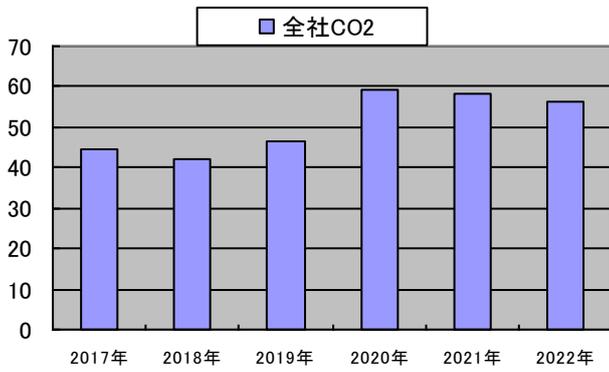
【環境目標と実績】

環境目標項目・単位			年 度		2017年	2019年	2020年	2021年	2022年	
			(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(目標)	(実績)		
二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量 合計	g-CO ₂ /kg	44.7	46.3	59.4	58.3	44.2	56.3		
	電力の削減	全社	g-CO ₂ /kg	36.5	37.8	48.3	48.3	36.1	45.8	
		伊予工場	g-CO ₂ /kg	38.0	37.1	39.6	40.8	37.6	40.2	
		萩生工場	g-CO ₂ /kg	34.8	38.3	57.1	55.3	34.5	60.0	
	燃料の削減 (軽油+ガソリン)	本社	kg-CO ₂	1386	1207	1347	1360	1372	1353	
		全社	g-CO ₂ /kg	8.2	8.5	11.1	10.0	8.1	10.5	
		伊予工場	g-CO ₂ /kg	2.42	2.15	2.52	2.50	2.40	2.85	
		萩生工場	g-CO ₂ /kg	1.24	1.25	1.45	1.26	1.23	1.21	
	廃物の削減	本社	g-CO ₂ /kg	6.41	6.84	9.10	8.10	6.35	8.45	
		廃プラの削減	全社	g/kg	26.33	20.45	24.20	16.26	26.07	19.79
伊予工場			g/kg	51.72	38.90	46.17	32.4	51.2	37.91	
萩生工場			g/kg	1.36	1.09	0.81	0.94	1.35	0.70	
本社	g/kg		—	—	—	—	—	—		
総排水量の削減	節水	全社	L/kg	0.146	0.112	0.132	0.126	0.145	0.132	
		伊予工場	L/kg	0.0927	0.1097	0.1013	0.106	0.0918	0.1097	
		萩生工場	L/kg	0.198	0.115	0.164	0.146	0.196	0.156	
		本社	m ³	60	47	52	41	59.4	32	
化学物質使用量の削減	全社	Kg								
グリーン購入の推進	全社	カーゴリー点数	48/79	48/79	48/79	48/79	48/79	49/79		

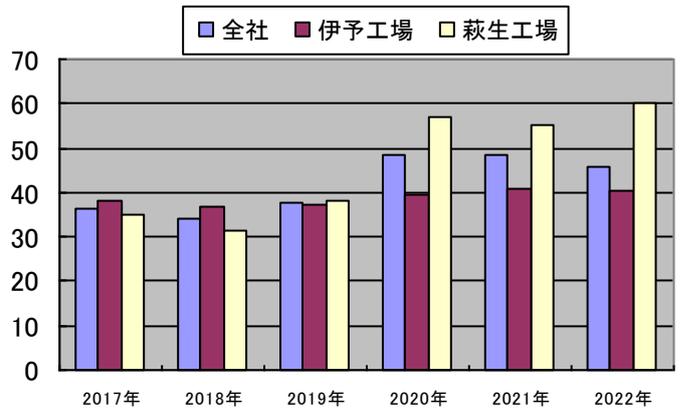
*電力の削減の「本社」に関しては、生産量原単位ではなく、二酸化炭素換算のみにて表示します。

*燃料の削減の「本社」に関しては、営業車と配送用トラックの燃料を計上しているために、生産量原単位で表示します。

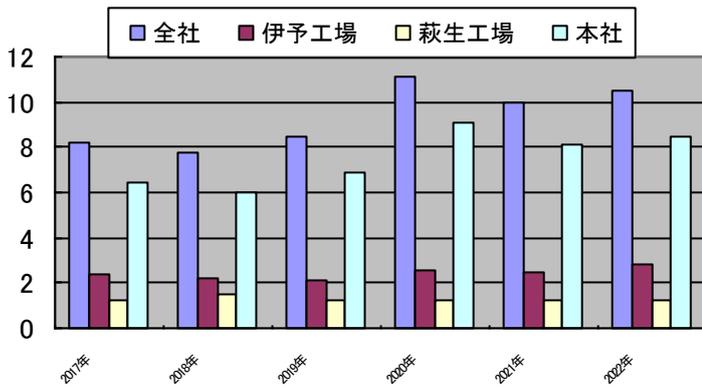
【二酸化炭素排出量合計の推移 (g-CO2/kg)】
(生産量 1kg 当りの単位)



【電力の CO2 排出量推移 (g-CO2/kg)】



【燃料の CO2 排出量推移 (g-CO2/kg)】

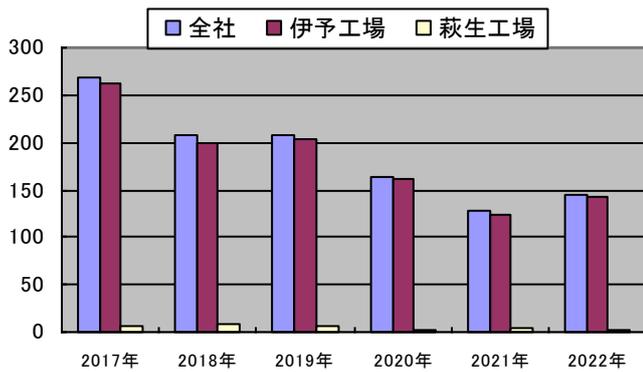


※CO2 排出量の合計のグラフより、2021 年から減少傾向に転じている。

※電力の CO2 排出量のグラフより、数年間は安定していたが、コロナ禍で減産により効率性は悪くなった。

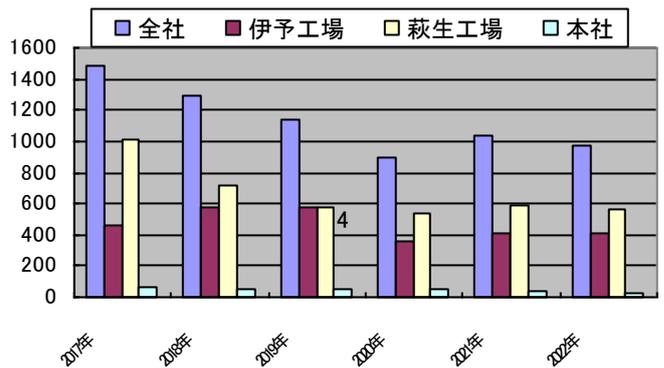
※燃料の CO2 排出量のグラフより、2022 年度は増加に転じたので、今一度引き締めが必要である。

【廃プラの推移 (t)】



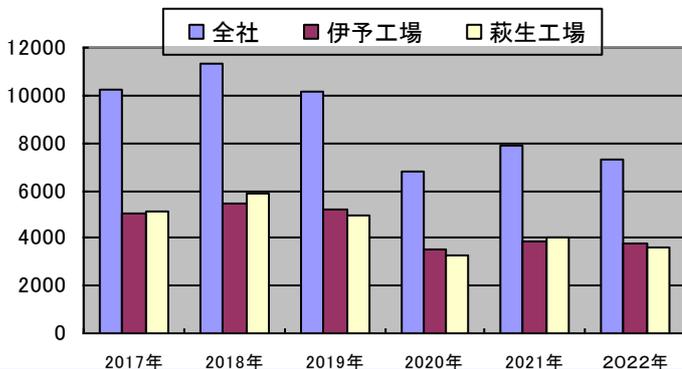
※2018 年度以降は減少傾向にあり、原料の状態も出荷元の協力があり、良くなっており、ゴミの量は減っている。

【水使用量の推移 (m³)】



※2022 年度は少し増えたが、以前として基準年を大きく下回っている。

【全行程の再循環処理量の推移 (t)】



※コロナ以降、全行程の処理量の落ち込みが続いており、処理量の増加を目指し、従来以外の素材の取り込みをすべく営業活動を実施している。

5. 環境活動計画の取組計画の内容とその評価、次年度の取組内容

2022年度の目標とその実績について、その評価を行った。

また取り組み計画と評価については、スペースの関係で、各工場・本社のそれぞれの計画をまとめて記載します。

環境活動計画の取組内容	目標と達成状況	評価(結果と今後の方向)
電力の削減 <ul style="list-style-type: none"> 工場内未使用空間の電灯消灯 (特に12~14時) 事務所内エアコン温度の基準値設定 夏季28℃、冬季20℃ 待機電力削減 (ミシン・扇風機の使用後コンセント抜く) 稼働していない設備の電源 OFF タクトタイムの削減 	基準年度 : 36.5 g-CO ₂ /kg 目 標 : 36.1 g-CO ₂ /kg (基準比 99%) 実 績 : 45.8g-CO ₂ /kg 2020年度、2021年度と高い水準より減少に転じた。 生産効率が改善傾向にある。	評価 : × <ul style="list-style-type: none"> 各取り組み内容については、十分に実績が上がっている。 生産量1kg当たりのCO₂は、コロナの影響により減産を強いられ、大量生産に適したラインのため生産量が減ると効率が悪くなる。 人的課題もあり処理工数を減少させていたが、人員の確保で増産に向ける。
燃料使用量の削減 <ul style="list-style-type: none"> エコドライブ運動展開 (アイドリングストップ、空ぶかし抑制) リフトの時速5km走行 リフトを離れるときはエンジンをストップ 入出荷予定を確認し、無駄な走行しないよう置場配置を考える 社用車の燃費等管理票作成 トラックの休憩時はエンジンをストップ トラックの高速道路運転時80km厳守 	基準年度 : 8.2 g-CO ₂ /kg 目 標 : 8.1 g-CO ₂ /kg (基準比 99%) 実 績 : 10.5 g-CO ₂ /kg 2020年度は、11.1 g-CO ₂ /kgでピークであったが、2021年以降は、耐えている状況。	評価 : × <ul style="list-style-type: none"> 取組のリフトの項目が出来ていない。 部門別に見て、伊予工場と本社関連の配送部門の効率が悪い。 生産に直結していない動きが多いのが原因である。 今後は、無駄をあぶり出して、効率的な運行を推進していく。
産業廃棄物(廃プラ)の削減 <ul style="list-style-type: none"> 〈発生抑制〉 <ul style="list-style-type: none"> 粉砕物の飛散防止方法の構築 ダンゴの発生防止 ペレット選別ローダーの漏れ防止 〈再利用〉 <ul style="list-style-type: none"> 飛散粉砕物の回収・洗浄 ミスカットの再練り ダンゴを種類別に回収・粉砕 再利用 分別ルール・方法に係る掲示版・マニュアル作成 	基準年度 : 26.33 g/kg 目 標 : 26.07 g/kg (基準比 99%) 実 績 : 19.79 g/kg 基準年よりは確実に削減が出来ていると言ってよい。	評価 : ○ <ul style="list-style-type: none"> 各取組については、完璧に出来ている。 歩留りが悪い素材の入荷が減ったことが大きな要因。 今後も再利用、歩留りアップを念頭に引き続き取組事項を継続する。
節 水 <ul style="list-style-type: none"> 節水呼びかけ (注意喚起ラベル貼付) 清掃時は雨水を利用 パッキンの確認・劣化分は取り換え トイレ利用時、使用前に流さない 流しっぱなしにしない 洗浄が必要かどうか、素材ごとの見直し 	基準年度 : 0.146 l/kg 目 標 : 0.145 l/kg (基準比 99%) 実 績 : 0.132 l/kg 現状で落ち着いている状況であると思う。	評価 : ○ <ul style="list-style-type: none"> 各取組は確実に出来ている。 洗浄対象物の見直しにより、水の使用を見直した。 弊社は雨水を工程水に利用しているので、雨量に左右される。 今後も、引き続き取組事項を確実に実施していく。

取り組み計画	達成状況	評価(結果と今後の方向)
化学物質使用量の削減 ・PRTR 制度の理解 ・対象化学物質の種類、使用量、保管量 使用方法、使用場所、保管場所等の把握	・対象化学物質の確認 対象物質の使用なし	水処理で薬品の使用があるが、PRTR制度の対象物質ではない。 但し、使用状況の管理は継続する。
グリーン購入の推進 ・グリーン購入の理解 ・対象商品カテゴリーの把握	・現行で不足分は随時変更購入 (対象項目79品) 2021年3月末 49品維持	従来より事務用品は、グリーン購入対象商品の購入が多くあった。 今回カテゴリー毎に整理し、未使用カテゴリーを無くすことから始める。 次年度は、現状を維持する。

【2022年度の評価】

- ・省エネ・二酸化炭素排出量削減の推進については、目標である1%削減（基準年2017年度比）は、電力と化石燃料とも未達成となりました。
 電力については動力が殆どで、入荷数量の減少に関わらず、処理工程が多い素材のために電力の使用が増えた。石化燃料については、使用量は減っているが、生産量原単位からみると効率が悪くなっている。個々の取組は確実に実行出来ているので、全行程の処理量をアップさせていくのと、改めて無駄を見出す努力が必要となる。
- ・産業廃棄物（廃プラ）の削減については、取り組み事項は確実に実施出来ており、数値にも表れている。
 但し、今以上の削減は厳しい状況にあり、プラスチックリサイクルにおいて、キレイな材料ばかりを扱うことは出来ない現実もある。どうしても使用できない部分があるものは廃棄しなければならず、このような素材を少しでも世の中に戻すためにリサイクルを継続していく。
- ・節水についても、コロナの影響による減産で引き続き効率が悪くなっております。
 但し、水の使用量の多い処理工程の中で、検証を行い、必要最低限の素材に集約したことで、削減に寄与出来た。それと伊予工場の底を増設し雨水の回収量が増えたことは、少なからず使用量が減った要因でもあります。
- ・化学物質使用量の削減については、薬品の MSDS 調査にて PRTR 制度の対象化学物質の保有はしていないことを確認しております。
- ・グリーン購入については、引き続き数値を維持できるように取り組みます。（49品目／79品目中）

【2022年以降の取り組みについて】

- ・電力削減について：生産量を増やすことが出来れば削減は簡単だが、メリハリのある生産を実施する。
 タクトタイムを削減して、少しでも高効率化に向けての活動を行う。
- ・燃料削減について：エンジンの付けっぱなしなど、ちょっとしたことの積み重ねを今一度徹底をする。
- ・廃棄物削減について：現状では、これ以上のことは難しいので、現状の取組を継続する。
- ・節水について：現状の取組を継続して、不要な水の使用を避ける。

いずれにしても、評価する基準単位が、生産1kg当たりに対する単位（生産量原単位）を採用しているので生産量（処理量）をアップさせることで、原単位が下がってくることは検証済みです。

そのため、全行程の処理量を2017年度と同様にするため、従来以外の素材の取り扱いも増やしていく。

また、地元の新居浜市のSDGsの取組に対し、資源循環プラットホームの分科会のメンバーになったので、今後は当社のプラスチックリサイクル技術を活かして、協力して参ります。

6. 環境関連法規制等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	該当する要求事項	適用される施設等	遵守評価記録	
			合否	内容
廃棄物処理法	・保管場所における適正保管と掲示板の設置	産業廃棄物 (廃プラ)	○	規格掲示板あり
	・収集運搬・処理業者との契約、許可証写し保管		○	許可証あり
	・産業廃棄物管理票(マニフェスト)交付、回収		○	マニフェスト伝票あり
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出		○	受理書あり
騒音規制法	愛媛県公害防止条例 (幹線交通を担う道路に近接する空間における特例) 70 デシベル以下	粉碎機 ハンマクラッシャー	○	毎月測定記録
水質汚濁防止法	・排水基準の順守	排水	○	基準内
	・水質測定・記録			
浄化槽法	・設置の届出	浄化槽	○	届出の受理書あり
	・保守点検・清掃及び法定検査受審		○	基準内
下水道法	・使用届出	下水道	○	届出の受理書あり
	・排水基準の順守		○	基準内
消防法	・指定可燃物の保管の届出	合成樹脂	○	届出の受理書あり
化管法	・指定化学物質の自主的な管理の改善 PRTR 制度と MSDS の交付	排水	○	物質の把握
フロン排出抑制法	・第一種特定製品の簡易点検及び定期点検、記録 保管、漏洩時の報告義務	エアコン	○	3 ヶ月に一度の簡易 点検実施。

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

<総合評価>

2021年度に10年継続記念の盾を頂戴し、2022年度は新たな10年に向けてスタートをした年度でした。

コロナ禍より脱け出し、回復に向けて世の中が動くと思いきや、世界経済の混迷、そして各素材の値上げで、自動車や食品、あらゆるところでの減産が発生しており、リサイクルの基になるプラスチック素材が減少しており、処理量も減少しており、大量生産に適した当社のラインでは、非効率な状況が続き電力と石化燃料の削減目標が未達成となりました。



① 二酸化炭素排出量の削減について

二酸化炭素排出量の削減に対しては、従業員の意識も継続出来ており、工場内の改善活動は評価出来ると考えております。しかし、ちょっとした気のゆるみで、エンジンのかけっぱなし等が目について来ているのも事実です。

本レポートのあちらこちらにも出てきますが、ポイントは生産量の増加です。基準年の2017年の実績である全行程の処理用(10,200,621kg)に戻すことを、高い優先順位に位置付けて取り組んでまいります。

② 節水について

雨水の回収を増やすことが出来るように、庇を延長したことは、雨水の回収に役立ちました。加えて洗浄工程で使用している素材を見直しました。品質も問題無い用途については、洗浄工程を減らすことで、水の使用量を減らすことが出来ていますので、引き続き無駄を見つけ、排除をして参ります。

③ 産業廃棄物(廃プラ)の削減について

「発生抑制」と「再利用」を基本として継続活動を行います。

「再利用」については、対象物は100%達成できておりますが、「ゴミ発生抑制」については、行き詰まり感があります。これは入荷素材の状態が変化していることによります。

④ 化学物質使用量の削減について

現状では、PRTR制度の対象化学物質の使用は認められませんが、薬品を使用している部門では使用と在庫の管理を継続して、環境への影響を及ぼす排出が無きようにします。

⑤ グリーン購入について

本年度の結果として、対象品目の62%が継続的にグリーン購入できております。

今後は購入可能な対象物が大幅になりますので、未だ使用可能な品目については、随時買い替え時期に注意して変更していきたいと思っております。

⑥ 地域の環境啓発活動への貢献について

地域との環境コミュニケーションに関しては、コロナが明けて、従来の活動が復活してきております。

次年度以降は、新居浜市のSDGsの取組に参画して、資源循環プラットフォームの分野でお手伝いが始まる予定です。

<環境方針、目標の見直しについて>

環境方針の見直しは行いません。昨年改定しました環境方針は、2019年のガイドラインに沿ったものであると共に、新法のプラスチック資源循環促進法にも触れた内容です。

但し、基本的な取り組み内容に変更はございません。

行動指針の周知を図るとともに、環境教育、人材育成を積極的かつ継続的に行い、環境経営活動を推進し、より一層の環境配慮型事業を目指します。

2023年9月30日 代表取締役 井門 義寛

環境目標設定書

承認	確認	作成
井 門	枝茂川	井 門
社長	環境管理責任者	環境事務局

作成日：2021年 4月 30日 改訂日： 年 月 日 P 1 / 1

環境方針 (キーワード)	環境目標項目 (負荷の自己チェックを踏まえて策定)	責任部門 責任者	基準値 (基準年度)	目標	年度毎目標・達成手段 (取組の自己チェックを踏まえて策定)				
					2021年度	2022年度	2023年度		
					達成手段	達成手段	達成手段		
二酸化炭素 排出量削減	電力の削減 (工場)	工場	生産量1kg当り 36.5g-CO2/kg 372,373kg-CO2 (2017年)	目標 ▲1% 36.1g-CO2/kg	▲1% 36.1g-CO2/kg	▲1% 36.1g-CO2/kg	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・電力削減委員会活動 ・電力会社の変更 ・製造行程の改善 ・タクトタイムの削減(効率化) ・事務所内エアコ温度(夏季28℃、冬季20℃) 	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・電力削減委員会活動 ・不要照明の消灯 ・設備改善、生産量アップ ・タクトタイムの削減(効率化) ・事務所内エアコ温度(夏季28℃、冬季20℃) 	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・電力削減委員会活動 ・契約電力の見直し ・製造行程の改善 ・タクトタイムの削減(効率化) ・設備改善、生産量アップ ・電力会社の見直し
	電力の削減 (本社)	本社	1,386kg-CO2 (2017年)	目標 ▲1% 1,372kg-CO2	▲1% 1,372kg-CO2	▲1% 1,372kg-CO2	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・エアコン温度設定(夏季28℃、冬季22℃) ・サーキュレーター導入 ・昼休み、不要照明の消灯 	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・エアコン温度設定(夏季28℃、冬季22℃) ・昼休み、不要照明の消灯 ・待機電力の削減 	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・エアコン温度設定(夏季28℃、冬季22℃) ・エアコンの定期的清掃 ・昼休み、不要照明の消灯
	軽油の削減 ガソリンの削減	工場 本社	生産量1kg当り 8.2g-CO2/kg 84,014kg-CO2 (2017年)	目標 ▲1% 8.1g-CO2/kg	▲1% 8.1g-CO2/kg	▲1% 8.1g-CO2/kg	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・燃料削減委員会の活動 ・エコドライブ運動展開 ・リフト、社用車の燃費管理表 ・リフト・トラックのアイドリングストップ ・エアコン設定温度(夏季27℃、冬季22℃) ・作業時間、走行距離の短縮化 	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・燃料削減委員会の活動 ・エコドライブ運動継続 ・リフト、社用車の燃費管理表 ・リフト・トラックのアイドリングストップ ・エアコン設定温度(夏季27℃、冬季22℃) ・作業時間、走行距離の短縮化 	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・燃料削減委員会の活動 ・エコドライブ運動継続 ・作業時間、走行距離の短縮化 ・リフト、社用車の燃費管理表 ・リフト・トラックのアイドリングストップ ・エアコン設定温度管理と乗車時の暖気換気
廃棄物の削減	廃プラの削減	工場	生産量1kg当り 18.38g/kg 207.5t/年 (2018年)	目標 ▲1% 18.2g/kg	▲1% 18.2g/kg	▲1% 18.2g/kg	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・廃プラ削減委員会活動 ・ダンゴ発生防止、再利用 ・ペレット選別ローダーの漏れ防止 ・ミスカットの再練り ・水濡れ残渣の再利用 	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・廃プラ削減委員会活動 ・ダンゴ発生防止、再利用 ・ペレット選別ローダーの漏れ防止 ・ミスカットの再練り ・水濡れ残渣の再利用 	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・廃プラ削減委員会活動 ・ミスカットの再練り ・水濡れ残渣の再利用 ・清掃の徹底と分別回収
総排水量の削減	節水	工場	0.146 L/kg 1,485 m ³ /年 (2017年)	目標 ▲1% 0.144 L/kg	▲1% 0.144 L/kg	▲1% 0.144 L/kg	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・節水委員会活動 ・節水ラベルの貼付 ・流し放しの使用抑制 ・雨水の回収と利用の拡大 	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・節水委員会活動 ・水漏れチェック体制の構築 ・清掃時は雨水利用 ・雨水の回収と利用の拡大 	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・節水委員会活動 ・清掃時は雨水利用 ・水漏れチェック ・雨水の回収と利用の拡大
		本社	60 m³ (2017年)	目標 ▲1% 59 m³	▲1% 59 m ³	▲1% 59 m ³	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・節水委員会活動 ・植木散水の適正量の散水 	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・節水委員会活動 ・植木散水を雨水利用 	達成手段 <ul style="list-style-type: none"> ・節水委員会活動 ・植木散水を雨水利用

グリーン購入	環境に配慮した 事務消耗品の購入 及び資材・機材・備品 への拡大推進	全社	購入率 56% 48/79 項目 (2017 年)	目標	購入率 62%維持 (49 項目)	購入率 62%維持 (49 項目)	購入率 62%維持 (49 項目)
化学物質使用量削減	PRTR 制度に基く有害 化学物質を経時的に 把握し、記録・管理	工場	適正管理	目標	適正管理	適正管理	適正管理
				手段	<ul style="list-style-type: none"> 購入比率管理表のチェック 専任購買者による購入 エコ商品の情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> エコ商品の確認 購入比率管理表のチェック 専任購買者による購入 	<ul style="list-style-type: none"> エコ商品の確認 購入比率管理表のチェック 専任購買者による購入
				手段	<ul style="list-style-type: none"> タケ、パイプ等の保守・点検を定期的に行う等適正管理 化学物質の経時的に記録管理 	<ul style="list-style-type: none"> タケ、パイプ等の保守・点検を定期的に行う等適正管理 化学物質の経時的に記録管理 	<ul style="list-style-type: none"> タケ、パイプ等の保守・点検を定期的に行う等適正管理 化学物質の経時的に記録管理

② 自社原料の処理量 添付書類①

2021年(2021年4月～2022年3月)

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量 (t)	
(i) 収集運搬		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 全て有価にて買取のため実績なし </div>		
収集運搬量合計			0	
(ii) 中間処理	廃プラスチック類		3500.96	
うち 再資源化等	廃プラスチック類	粉砕・溶融	3,500.96	
	再資源化等量小計		3,500.96	
中間処理合計			3,500.96	
(iii) 最終処分				
最終処分量合計			0	
(iv) 中間 処理後の 産業廃棄 物	最終処分	廃プラ	最終処分場へ委託	128.0
	再資源化等			
		再資源化等量小計		0
中間処理後処分量合計			128.0	